



大人になれば、アートのひとつやふたつくらい
語れるようになるんだろうと思っていたけど。
現実のわたしたちは、なかなかそうはいかないらしい。

アートは何も聞かないし、何も喋らない。
だからなんとなく難しく、ずっと距離が遠い。

それでもふいに、引き寄せられるように
出会ってしまうことがある。

家の白い壁に1枚の絵を飾る。
休日はギャラリーを訪ねてみる。
街にひそんだアートを探してみる。
こんなことが、暮らしを豊かにしていくのかもしれない。

たとえばある晴れた日の朝に、部屋のなかで。
時間を忘れて見つめたくなるもの。
何度も繰り返し触れたいくなるようなもの。
知らなかった感情に気づくもの。
それは驚きと喜びに満ち、普遍的な言語をもっている。

特集
晴れた日にはアートを。

Art on a sunny day.